

愛媛県内のこども食堂をデジタルでつなげる 情報共有でこども食堂の持続可能な運営を支える

採択事業者名

サイボウズ株式会社

コンソーシアム構成員

サイボウズ株式会社／地域こども食堂ネットワーク

事業概要

目的

愛媛県内のこども食堂の持続可能な運営を支えるために、デジタルを活用した情報共有の土壌作りを行い、ITツールの活用が自走できる体制を整える。

課題

令和4年度に構築した愛媛こども食堂デジタルプラットフォームには、情報共有を行うための機能(コンテンツ)は搭載されているものの、日常レベルでの活用には至っていない。
こども食堂間の連携を進めるためにも、情報共有の重要性を理解し、日常的にツールを利用してもらうことが重要である。



解決策

愛媛県内のこども食堂を支援する、えひめ地域こども食堂ネットワークとの連携を強化することで、個別のこども食堂とつながり、直接システム活用の支援を行う。
えひめ地域こども食堂ネットワーク内にシステムの運用担当を置き、自走でのシステム活用につなげる



取り組み内容

- 先行ユーザーによるプラットフォーム活用促進
愛媛県内で先行ユーザーを募り、情報共有基盤を作る
- プラットフォーム活用勉強会の実施
先行ユーザーを対象に定期的な勉強会を実施
- 運用マニュアルやFAQの作成
導入時のマニュアルやFAQの作成
- リアルイベントの実施(年1回想定)
イベントの企画などを通してシステム利用の機会を創出
- えひめこども食堂デジタルプラットフォームの運営体制強化
プラットフォーム運営を「えひめ地域こども食堂ネットワーク」に移管する



検証項目

- システム利用施設数
- 自走によるアプリ作成数
- イベント開催
プラットフォーム活用開会送出のためのイベント実施
- オリジナルレシピ登録数
- FAQ登録数
- システム導入支援員育成

取得データ

各こども食堂の設立経緯
現在感じている困りごとに関する情報

データ活用による考察・示唆

愛媛県内のこども食堂の課題をヒアリングし、データとして登録することで、ヒト・モノ・カネ・場所などこども食堂が抱える困りごとの実態が明確になった。

成果と今後

成果(含む想定)

#最大100文字程度

| | | 実装前 | 実装後(～今年度) | 今後3年 |
|-----|------|---|---|---|
| 金額 | 金額 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 業務効率化 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 業務効率化 42,000 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 業務効率化 129,000 |
| | 重要指標 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ こども食堂登録数 … 3件 ➢ システムユーザー数 … 17名 ➢ システム利用者数 … 435名 ➢ 自走アプリ作成数 … なし ➢ システム運用人数 … なし | <ul style="list-style-type: none"> ➢ こども食堂登録数 … 25件 ➢ システムユーザー数 … 33名 ➢ システム利用者数 … 711名 ➢ 自走アプリ作成数 … 1 ➢ システム運用人数 … 1名 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ こども食堂登録数 … 100件 ➢ システムユーザー数 … 150名 ➢ システム利用者数 … 1000名 ➢ 自走アプリ作成数 … 10 ➢ システム運用人数 … 3名 |
| 定性面 | 定性面 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 宇和島市を中心としたこども食堂での活用 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 南予地区及び松山のこども食堂での活用 ➢ フードバンクとの情報連携 ➢ 社会福祉協議会との情報連携 ➢ 県内こども食堂の課題見える化 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 愛媛県内全域での活用 ➢ 中四国のこども食堂ネットワークへの導入 ➢ 情報共有による食材の効率分配 ➢ 補助金活用などによる運営安定化 |

次年度以降の実装計画/見立て

現在愛媛県内に120を超えるこども食堂が存在しており、今後もさらに増加傾向にある。しかしながら近年の物価高騰や、人材不足により、その運営は厳しい状況に晒されている。そういった状況の中、今回のプロジェクトの目的である、こども食堂間の情報共有の必要性がさらに高まっているが、運営者の理解はまだまだ低い状況となっている。
しかし、今年度の取り組みにより、中間支援団体での自走の可能性が高まっており、県内全域での活用につながりつつある。また、食支援の取り組みを中心に、中四国の支援団体とのネットワークも広がっており、愛媛県のモデルを中四国のこども食堂にも展開を図りたい。